

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(3年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	綾部市立綾部中学校							校長名	小林 昌宏																																																																																	
学 年	1 年	2 年	3 年				特別支援	生徒数	445 名																																																																																	
学級数	5	5	5				3																																																																																			
事業担当教員名	圓山 良介																																																																																									
① 中学校区で目指す子ども像	ブロック教育目標：自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～ ブロック目指す子ども像：夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 綾中ブロックの子 夢をもち (将来を見据え、主体的に学び表現する子) 【展望する力】 仲間とともに (豊かな心をもち、自他ともに大切にできる子) 【つながる力】 未来を切り拓く (心身ともに健康で、実践力と行動力のある子) 【挑戦する力】 綾中ブロックの子 (誇りと郷土愛をもち、地域とかかわる子) 【貢献する力】 ・課題解決において最適な学び方を選択し、自己調整を働かせながら、主体的に学び、課題解決に向けて最適な方法を選び、粘り強く取り組むことができる。 ・他者と効果的にコミュニケーションを取り、対話を通じて自分の考えを伝え合う表現力(話す・聴く・考える)を身に付けている。 ・自己理解を深め、夢や希望をもち、それらの実現に向けて行動することができる。																																																																																									
② 目指す子ども像	・認知能力、非認知能力、メタ認知の力をバランスよく伸ばしている。 ・自身の学習を自分で準備、実行、完了することのできる力と意思をもち、自律的な学びを実現することができる。 ・課題解決的に学び、課題に対して意欲をもって取り組むことができる。 ・自分の弱みを見せて、本音で語り合うことができる。 ・下級生のモデルとして自身の姿をふり返り、上級生をモデルとしてより良い生き方を考え、行動できる。 ・自分たちの学びや行動が、身近な人や社会を変えることができるという自己有用感に裏付けられた自尊感情が育っている。 ・自己の理解を深め、夢や希望をもって、将来の生き方や生活を考え、自ら学習に向かうことができる。																																																																																									
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	●質問調査(令和7年2月実施)による変容(当てはまる・どちらかというのと当てはまるの割合) ①自己調整に関する質問 <table><tr><td></td><td colspan="2">自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ</td><td colspan="2">わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている</td><td colspan="2">課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている</td><td colspan="2">目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていつている</td></tr><tr><td></td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td></tr><tr><td>1年生</td><td>71</td><td>68</td><td>73.2</td><td>73</td><td>42</td><td>52</td><td>74.6</td><td>60</td></tr><tr><td>2年生</td><td>74.5</td><td>65</td><td>70.1</td><td>74</td><td>33.1</td><td>69</td><td>55.4</td><td>63</td></tr><tr><td>3年生</td><td>74.7</td><td>72</td><td>74.6</td><td>86</td><td>41</td><td>62</td><td>67.8</td><td>73</td></tr></table> ②体制化に関する質問 <table><tr><td></td><td colspan="2">学習するとき、自分で考えたことをあらためてまとめなおしたりする。</td><td colspan="2">学習するとき、教科書やノートやプリントなどを見直し自分で大切なことがらを見つけ出して、整理している。</td><td colspan="2">学習したことをまとめるために自分で簡単な絵をかくたり図や表を作ったりする。</td></tr><tr><td></td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td><td>R6.5月</td><td>R7.2月</td></tr><tr><td>1年生</td><td>64.5</td><td>57</td><td>73.9</td><td>75</td><td>55.1</td><td>49</td></tr><tr><td>2年生</td><td>47.8</td><td>50</td><td>68.1</td><td>64</td><td>47.8</td><td>48</td></tr><tr><td>3年生</td><td>58.2</td><td>56</td><td>78.1</td><td>70</td><td>49.3</td><td>47</td></tr></table>											自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ		わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている		課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている		目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていつている			R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	1年生	71	68	73.2	73	42	52	74.6	60	2年生	74.5	65	70.1	74	33.1	69	55.4	63	3年生	74.7	72	74.6	86	41	62	67.8	73		学習するとき、自分で考えたことをあらためてまとめなおしたりする。		学習するとき、教科書やノートやプリントなどを見直し自分で大切なことがらを見つけ出して、整理している。		学習したことをまとめるために自分で簡単な絵をかくたり図や表を作ったりする。			R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	1年生	64.5	57	73.9	75	55.1	49	2年生	47.8	50	68.1	64	47.8	48	3年生	58.2	56	78.1	70	49.3	47
	自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ		わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている		課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている		目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていつている																																																																																			
	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月																																																																																		
1年生	71	68	73.2	73	42	52	74.6	60																																																																																		
2年生	74.5	65	70.1	74	33.1	69	55.4	63																																																																																		
3年生	74.7	72	74.6	86	41	62	67.8	73																																																																																		
	学習するとき、自分で考えたことをあらためてまとめなおしたりする。		学習するとき、教科書やノートやプリントなどを見直し自分で大切なことがらを見つけ出して、整理している。		学習したことをまとめるために自分で簡単な絵をかくたり図や表を作ったりする。																																																																																					
	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月																																																																																				
1年生	64.5	57	73.9	75	55.1	49																																																																																				
2年生	47.8	50	68.1	64	47.8	48																																																																																				
3年生	58.2	56	78.1	70	49.3	47																																																																																				

	③精緻化に関する質問						
		学習するときは、教科書以外にも、辞書・図鑑・参考書・プリントなどいろいろなものを参考にして情報を集めている。		授業で新しく学習したことをこれまで学習したことと結びつけて理解したり、話合いで活かしたりしている。		ほかの教科の授業で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。	
		R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月
	1年生	56.6	54	66.7	66	65.3	67
	2年生	49.7	56	67.6	64	63	61
	3年生	57.6	70	65.1	80	63.7	79
	④教科に関する質問						
		国語の学習は好きだ		数学の学習は好きだ		英語の学習は好きだ	
		R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月
	1年生	47.8	53	58.7	61	66.7	55
	2年生	31.2	53	52.2	66	43.3	53
	3年生	45.2	52	52	68	54.1	63
	⑤その他						
		学校へ行くのは楽しい		学校では安心して学習することができている。		自分で計画を立てて学習をしている。	
		R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月	R6.5月	R7.2月
	1年生	81.9	73	81.2	74	55.1	69
	2年生	68.8	74	84.1	88	51.6	62
	3年生	83.5	85	93.8	91	55.5	71
	◆生徒の実態（学力） ・客観的な学習状況調査テストでは国語、数学、英語ともに府平均を下回っており、学力的には厳しい状況がある。						
④ 目指す子ども像に達するための仮説	●仮説 ①教師の授業力が上がれば、生徒の学びが自分ごとになり、学力が向上する。 【教師】 ②具体的な将来の展望をもち、目指す目標を自己選択、自己決定する機会を設けることで、自己調整しながら学ぶ生徒が増える。 【生徒】 ③自己調整を図る授業改善や家庭学習の充実を図ることで、学びに対する積極性を高めることができる。 【教師】 ④学校生活が充実すれば、自己有用感（非認知能力）や、認知能力（学力）が向上する。 【生徒】						

令和7年5月1日現在

【1 研究主題】

「自己選択・自己決定・自己調整で学びを自分ごとにする生徒の育成」
～教師が変われば、子どもが・学校が変わる～

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

- ①生徒が自己調整を働かせて学ぶ授業の構築
自己調整を働かせている姿を教職員で共有し、生徒が考える時間を授業の中で確保するように努める。また、考える際に見方・考え方を働かせることができるよう、各教科で授業構成を練り上げ、授業改善を進める。見方・考え方を視覚化したワークシートの開発や、発問の具体を協議し、各教科の資質・能力を付ける授業を目指す。
- ②認知的方略を軸に、生徒が学習方略を習得できる授業の構築
自己調整と相関関係が高い精緻化、体制化を中心に、生徒が学習方略を習得し、状況に応じて自己選択できるような授業の構築を目指す。そのためにも、教員自身が学習方略について知り、生徒に教えられるようにする。
- ③授業改善を継続して進める研究体制の確立
国語、社会、数学、理科、英語の教科主任が研究部に所属し、「見方・考え方を働かせた授業」「学習方略を習得できる授業」の推進を目指して、6月から2週に1回の頻度で時間割に研究部会を組み込み、授業改善の協議を継続して行う。生徒が自己調整しながら学力を付ける授業にするために、具体的にどのように見方・考え方を働かせる授業ができるか、各教科に合った学習方略とはどのようなものがあるか、など具体化して協議を進める。
- ④生徒の学力を支える学級経営
生徒が授業に集中できる環境は、学級経営が大きく関係している。昨年度は全ての学級で安心安全な学級をつくることができているとは言えない実態も見えてきた。担任と生徒の縦の関係だけでなく、学級内で生徒同士が関わり合える横の関係づくりを意識的に進めていく必要がある。生徒の心理的安全性を確保し、学びに向かえる環境を作るためにも、学級経営に関する校内研修を積極的に実施し、先進校等の実践も参考に学級づくりを進めていく。
- ⑤生徒が学ぶ意義を見いだす総合的な学習の時間の推進
令和6年度から実施した総合的な学習の時間「マイキャリア」を今年度も引き続き実施し、各学年が系統的に学び、社会参画を図るカリキュラムを設定する。社会につながり、大人と出会い、学校外での経験を増やすことで、学力を支える非認知能力を育む。
- ⑥キャリア教育の視点で進める学校改革
生徒が将来生きていくために必要な教育活動を精選し、教職員の組織力を向上させるために、これまでの教育活動を見直しながら職場環境を整える改革を進める。キャリア教育の視点でカリキュラム・マネジメントを進め、教職員が対話しながら改革を「自分ごと」にできるプログラムを組み、授業改善や様々な教育活動に余裕を持って臨める職場環境をつくる。

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
1～3	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
	32	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。	自己調整	
	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。	自己調整	

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 ・積み重ねが必要な数学の学力低下が著しい生徒は、小学校の問題から復習する、小学校の問題プリントを渡す、挑戦したことを認める言葉掛けをする、といった支援を計画的に行う。 ・基礎基本の定着を図り、自信につながる支援を行う。同時に、自主勉強の仕方を教えて自分に合った学習方法を習得できるように支援する。 ・集団の中での活躍の機会を増やしながら、褒める場面を増やす。 ・教科部会を開いて、苦手な分野の改善に向けた単元構想を行い、単元全体で授業改善を進める。個に応じた支援ができるように教材開発を進める。 ・長文や読まなければならない部分は弱いので、入試に向けて短い文から読んでいけるように、教科担当と連携して支援していく。
集団としての具体的な指導・支援方法 ・数学科においては、技能における問題においても説明を求める機会を増やし、穴埋め問題ではなく、1から問題を解くことができる力をつけさせる。 ・英語科においては、知識・技能の徹底。量を解く。1年生の復習や小テストの実施をする。(疑問詞、過去形、特殊な表現、一般動詞、進行形、命令文など)。 ・国語科においては、スピーチや作文など、表現活動の機会を多く設定する。また、時間内で問題理解・処理をして解けるような教材の工夫を行う。 ・学びに対する積極性や目標に向けて取り組む姿勢が高い生徒ほど、学力の伸びが見られることから、学習への動機づけをいかに工夫して行うか、生徒の心に火を灯すことができるかどうかを吟味し、学習意欲を高める手立てを継続して行う。

【8 仮説の修正】

--

【9 具体的な取組内容の修正】

--

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

- ・中学3年生においては、中学1年生時から全ての学力層で向上が見られた。特に最上位の児童生徒が属するステップの学力層と最下位の児童生徒が属するステップの学力層の生徒は国語、数学において高い向上が見られた。
- ・中学3年生において、昨年度よりも学力が伸びた割合が国語は51.6%から64.7%に、数学は53.5%から61.1%に向上した。学年全体の学力ステップも府平均に並ぶ、もしくは府平均を超える結果も見られた。
- ・中学3年生の質問調査において、「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は令和5年度（中学1年生時）が71.8%に対して令和7年度は76.6%と向上が見られた。
- ・中学3年生の質問調査において、「安心して学習できる」と回答した生徒の割合は令和5年度（中学1年生時）が86.8%に対して令和7年度は90.0%と向上が見られた。
- ・中学3年生の質問調査において、「教科の学習が好きだ」と回答した生徒の割合は令和5年度（中学1年生時）の国語が41.5%に対して令和7年度は43.1%、令和5年度（中学1年生時）の数学が61.9%に対して令和7年度は62.6%と少し向上が見られた。

【11 次年度の研究構想】

- ・「見方・考え方」に焦点化した校内研究を進め、教科部会を計画的にもちながら各教科で「見方・考え方」を意識した授業改善を進める。
- ・学びのパスポートを活用した生徒の分析を年間に2回は設定し、日々の見取りとデータの両面で効果的な指導・支援を協議する。
- ・認知能力の向上に向けて、基礎基本の復習ができる学校体制づくりを進める。時程の改定等を踏まえて昨年度学習した内容を復習する時間を設定し、学校生活の中で復習が定着する仕組みを作ることができるようにする。
- ・中間層をターゲットに、基礎学力を伸ばせる環境づくりを精力的に設ける。漢字の読み書きや計算、英単語の読み書きなど、小学校段階で定着していない内容を中心に補習や支援ができるようにする。
- ・生徒の意欲が高まる授業展開を目指して、校内授業研究会などの機会を利用して全校での授業改善を計画的に進める。